

# 令和7年度 武生高等学校定時制 学校評価書

	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 ・ 学習支援	<p>a 多様な選択授業を実践することにより、わかる授業や学び直しの授業、発展的な選択授業によって授業参加を促し、生徒の自主的な学習意欲を引き出す。</p>	<p>【分析】 全項目で目標値以上の回答を得られた。全教職員がわかる授業づくりを心がけ、生徒の授業参加を促していると回答している。生徒の「欠席・遅刻をしない」「授業を理解する」「課題をきちんと提出する」の割合も改善が見られた。 同様に、保護者の「子どもの出席状況を把握し、授業に出席するよう努めている」の割合も改善が見られた。</p> <p>【成果】 教職員の「わかる授業」への取組と、授業参加の声かけ、学習意欲向上への取組が、生徒の取り組み姿勢を向上させることにつながった。保護者との連携体制も向上した。</p> <p>【課題】 授業参加への意識が高い生徒が増えたこと、時間をかけて意識が高まってきた生徒が増えたことは喜ばしい結果であるが、意欲に乏しい生徒が一定数いる。</p>	<p>【教職員】 本校では、他の定時制高校に比べ多くの選択授業を開講している。選択授業の内容や難易度、評価方法の事前説明を充実させる。ICT(動画やタブレット端末)を積極的に活用し生徒の学習意欲の向上に努める。 教員間で授業を積極的に見聞し、生徒の様子などの情報交換を通じて「わかる授業づくり」に努める。</p> <p>【生徒】 「なぜ学ぶのか」「卒業するために必要なことは何か」などを伝え、自分の学び方を振り返り、改善方法を考える機会を、意識的に設けるようにする。 授業に参加していない生徒について、出席状況や生活状況、心身の健康状態を把握し、情報を共有して、教員全体で声掛けなどの対応をする。</p> <p>【保護者】 保護者便での報告にとどまらず、出席状況で気になる生徒がいた場合、保護者と情報を共有し、連携を深める。</p>
	<p>b 読書の大切さを啓蒙し、こころ豊かな生徒の育成を図る。</p>	<p>【分析】 教職員の「生徒の読書推進に努めている」の割合が71.4%→89.5%(前年差+18.1pt↑)と目標値を上回った。生徒の「本を1冊以上読んだ」の割合も51.0%→61.0%(前年差+10.0pt↑)と昨年より改善している。</p> <p>【成果】 今年度は、教職員・生徒共に大きく数字が向上した。 全クラスで各学期に1回(年に2回)はLHで「読書活動」を計画している。また、探究学習「読書を楽しむ」講座の選択者が多く、図書コーナーから興味のある本を借りてその本に触れる機会を提供できている。続きが読みたいとそのまま借りて帰る生徒もいる。</p> <p>【課題】 休み時間や空き時間は、教室や生徒ホールでスマートフォンを使用している生徒が見られるが、一日にわずかな時間でも本に触れる時間が取れるとよい。中には小説を読んでいる生徒や、興味のある分野の専門書を読んでいる生徒もおり、読書に関心を持つ生徒は多いようである。</p>	<p>【教職員】 今後も継続して、LHの「読書活動」や授業の中で本に触れる機会を取り入れる。 推薦図書や愛読書の紹介など生徒に働きかける機会を増やす。</p> <p>【生徒】 生徒会での話し合いを通じて、希望図書のアンケートや読書を推進するアイデアを生徒から募集する。</p>
2 生徒支援	<p>a 生徒心得やマナーを守り、規範意識を高めさせる。その際に、地域や県の機関の生徒対象講座等も活用する。</p>	<p>【分析】 保護者と生徒の割合が昨年度に比べ2～3%上昇した。教職員の指導の徹底が100%となっており昨年度に比べ7pt向上している。</p> <p>【成果】 年間を通して昼休みに学校周辺の見回り計画を作成し、巡回を行った。また、内履きと外履きを履き替えさせるように指導を継続的に行った。 生徒ホールについてマナー違反を注意する張り紙や声掛けを継続的に行った。 生活支援部を中心に全教員が継続した指導を行うことができた。</p> <p>【課題】 今後も全教員が継続的に生徒の規範意識の向上に向けて支援をすることが大切であると考える。</p>	<p>【生徒】 今後も生徒一人ひとりの個性と人権を尊重した支援を継続的に行う。 生徒心得は教室掲示はもとより、生徒ホールや玄関など常に生徒の目に触れるところに掲示したい。また集会等を等して生徒全体に規範意識を高めるような指導を行う。</p> <p>【保護者】 保護者と連携しながら生徒の規範意識の向上に努める。 毎月の保護者便や年2回の保護者会を通じて、書面や対面による保護者との連携を行う。</p> <p>【教職員】 今後も全教員が継続的に生徒の規範意識の向上に向けて支援を行う。</p>
	<p>b 自転車の車体検査や交通安全講話を実施し、警察署と連携して交通安全指導を行う。また、登下校時の自転車乗車時のヘルメット着用義務化に向けて生徒の意識醸成を図る。</p>	<p>【分析】 「交通ルールをだいたい守れている」の割合が昨年度に比べ保護者が約30pt、生徒が約10pt低下した。これは来年度から義務化される登下校時の自転車通学者のヘルメット着用が不備であることが原因と思われる。本年度は準備段階ということもあり、大きく低下したものと考えられる。 また、雨天時や降雪時には保護者による送迎で登校する生徒が増え、校内に車を乗り入れるケースが見られた。</p> <p>【成果】 自転車通学者のヘルメット着用準備期間として前期は交通安全教室、後期には生徒集会や保護者便を利用し、来年度に向けての周知徹底を行った。後期に入り送迎の際の校内に車乗り入れを禁止する文書を保護者に送付し周知徹底を行った。</p> <p>【課題】 在校生については後期末に向けて、新入生に向けては合格者登校日に自転車通学予定者にはヘルメットの購入の徹底と着用を呼びかけたい。送迎車の敷地内乗り入れ禁止について、保護者会や保護者便を通し継続的に周知徹底に努めることが課題である。</p>	<p>【生徒】【保護者】 集会や保護者便で4月からの自転車通学者のヘルメット着用はもとより、16歳以上に青切符導入が実施されることを周知徹底する。 送迎車の敷地内乗り入れ禁止の案内や、敷地外でなくても幹線道路での乗降り禁止となる場所を明確に示し、保護者会や保護者便を通じて継続的に周知徹底に努める。</p> <p>【教職員】 道路交通法の遵守と「自他の命を尊重する心」を育む教育や交通安全教室等を関係機関と連携しながら、継続的に取り組む。</p>

# 令和7年度 武生高等学校定時制 学校評価書

	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
3 進路支援	a 総合的な探究の時間を活用し、入学から卒業まで一貫したカリキュラムによる指導を行い、キャリア教育を充実させる。	<p>【分析】 全教職員が、一人ひとりに応じた進路支援を行っている」と回答した。学校全体で様々な機会を捉えて進路支援にあたっていることが評価できる。また、総合的な探究の時間を通して進路に関する知識を得ている生徒は、79.3%と目標に達する結果であった。</p> <p>【成果】 外部講師の活用や体験授業、外部機関への訪問等、多角的な進路研修が、生徒の進路に対する解像度を高めたとと言える。</p> <p>【課題】 今後は、得られた情報を自己のキャリア形成にどう昇華できるかが焦点となる。進路支援に関しての新たな取組も定着し始め、教職員・生徒・保護者の理解も深まってきたが、より効果的な支援になるよう、内容を検討すべきである。</p>	<p>【生徒】 外部講師の活用、体験授業、企業・上級学校訪問等で得た情報を、自己の進路や将来設計に結び付けて考えられるよう、振り返りや言語化の機会を充実させる。</p> <p>【教職員】 職業探究講座や進路適性検査の内容や実施方法を見直し、より効果的な支援ができるよう工夫する。卒業予定者以外の生徒を年度ごとに分けて学習内容を変えるなど、より一貫性のある進路指導になるよう整理する。</p>
	b 個々の生徒に応じたサポート学習、進学支援、就職支援を充実させる。	<p>【分析】 「卒業後の進路について保護者や教員と話している」という生徒が昨年度の54.9%から74.4%になり、目標が達成された。生徒一人ひとりに応じたサポート学習を目指している」と全教職員が答えた。</p> <p>【成果】 就職については、職場見学や進路ガイダンス、面接指導などを通して生徒の希望を優先し、おおむね希望にそった就職ができた。進学先は多様であり、各個人の進路状況に応じてサポート学習を行った。</p> <p>【課題】 進学については、進路決定の時期をもう少し早めることが望まれる。保護者も生徒も、学校の取組を評価していると言えるが、情報を共有する時間が持っていないようである。</p>	<p>【保護者】 handy進路指導室(高校生向け求人票管理システム)での求人票公開の周知や進路行事等への参加機会を設けることで、生徒・保護者・学校の三者が進路情報を共有できる体制を整える。</p> <p>【教職員】 進路希望調査や個別面談を早期に実施し、進路決定までの見通しを明確にする。特に進学希望者に対しては、小論文・面接・教科指導等について、進路決定時期を前倒しすることで、より個に応じた継続的な支援が行える体制を整える。</p>
	c 外部機関や教育相談との連携を密にして、進路選択に向けての生徒への働きかけを充実させる。	<p>【分析】 外部機関との連携について、全教職員が連携を密にして進路支援を行っている」と回答し、保護者の90.5%が外部機関との連携を進路支援に役立てている」と評価している。各項目で目標とする数値をクリアしており、様々な取組を理解してもらえている。</p> <p>【成果】 大学や企業訪問、インターンシップ、企業説明会など、企業や上級学校を訪問し、生徒の進路意識を高めることができた。就労支援を必要としている生徒については、担任と教育相談、外部機関と連携して適切な支援ができた。</p> <p>【課題】 授業での学校訪問や企業とのコラボなど、授業担当者と進路支援部との連携も必要だと感じた。</p>	<p>【教職員】 大学、企業、ハローワーク、福祉・就労支援機関等との連携を一層強化し、多様な進路選択に対応できる支援体制を構築する。授業や学校行事で外部機関を活用する際には、連携を丁寧に行い、進路支援としての効果を高める。</p>
4 教育相談・保健指導 通級指導	a 担任・SC/SSW・通級担当者とのケース会議を実施し、生徒理解を深めて適切な支援に努める。	<p>【分析】 【教職員】支援が必要な生徒に対し、SCやSSW、通級担当者、養護教諭から意見を聞いて情報共有をすることで生徒理解することを、94.7%の教職員ができた」と答えていた。</p> <p>【保護者】 担当者やSC、SSWが必要に応じて相談に乗ってくれる体制を93.2%の保護者が充実していると回答した。</p> <p>【生徒】 教職員やSC、SSWに対して30%の生徒が悩みを聞いてもらい、92.7%の生徒が悩みを聞いてもらえることを知っていた。以上のように、どの項目についても、目標を達成することができた。</p> <p>【成果】 必要な時に悩みをきいてもらったり、この先悩んだときに話を聞いてもらいたい項目に合わせて45%の生徒が回答していた。多くの生徒にとって、悩みを聞いてもらえる職員の存在は重要と考えられる。</p> <p>【課題】 保護者の中には少数ではあるが、本校の教育相談の体制が充実されていないとの回答があった。</p>	<p>【教職員】 生徒が相談しやすい体制を維持することや、終礼の時間を利用して生徒理解に努めることを続ける。</p> <p>【保護者】【生徒】 保護者や生徒に対してはSCやSSWの紹介や業務内容を知らせ、その仕事を理解してもらうなどして相談体制の一層の充実を図る。</p>
	b 校内環境美化や感染症対策をはじめとした衛生管理を推進する。	<p>【分析】 校内環境美化については、9割を超える生徒がゴミの分別に気を付けることができていた。また、家庭では保健だよりなどから情報を得て、感染症予防について意識を高めることができた」と94.6%の保護者が答えており、ともに目標を達成することができた。</p> <p>【成果】 ごみの分別については、多くの生徒が意識して取り組むことが継続できている。保護者に対して、保健だよりを定期的に配布することで感染症に対する意識向上に効果があったと考えられる。</p> <p>【課題】 分別はできてきているので、清掃への参加率を伸ばし、校内美化への意識を高めることが必要になる。</p>	<p>【生徒】 今後は、清掃時に音楽を流すなどして生徒が取り組みやすい環境を整え、積極的に清掃に取り組みめる働きかけを工夫する。</p> <p>【保護者】 今年度もインフルエンザの流行が見られたので、今後も本校から定期的に連絡を行い、保護者の感染症への意識を高い状態を保ち、維持できるようにする。</p>
	c 通級指導では、生徒の自立を目指し、個々の特性による困難を改善・克服するため、一人一人の状況に応じた指導を行う。	<p>【分析】 通級指導を受けることで個々の課題を改善できている」と94.7%の教職員が感じており、目標を達成することができた。</p> <p>【成果】 今年度も通級指導拠点校として県教委の研修協力や拠点校同士の情報交換会に参加し、得られた情報を校内へ発信してきた。また、巡回指導を通して地域の指導体制強化にも貢献することができた。通級指導では生徒の自己理解や表現力が向上し、小集団での学びにも良い影響が表れている。</p>	<p>【教職員】 学校設定科目「ライフスキル」が始まり、担当者同士が打合せを重ねて授業を行っている。今後も指導内容を共有しながら授業のパンをつなぐ体制を整えていく。</p>